

薬連ハイライト

本田あきこ紹介者・ 支援者名簿収集説明会 開催される

令和5年7月28日（金）、Webにて本田あきこ紹介者・支援者名簿収集説明会が本田あきこ中央後援会主催で開催された。司会は小山常任幹事。冒頭、山本会長の挨拶では、最近の日本薬剤師連盟活動について、来春のトリプル改定を念頭においての来年度予算及び税制改正や各種要望、更に日本薬剤師会の政策提言等について説明されると共に、薬剤師である本田あきこ参議院議員、神谷まさゆき参議院議員の活動を強力に支援する体制を構築すること、併せて2名体制を堅持することについて決意を示された。

その後、本田あきこ参議院議員のご挨拶では、厚生労働大臣政務官としての直近の活動と共に、2年を切った次期に向けた決意が述べられた。

説明会では、大澤副会長より「本田あきこ紹介者・支援者名簿活動について」と題して、各県毎の分析も踏まえた過去6回の選挙のデータを基に、20万に向けた目標の設定と、紹介者名簿・支援者名簿の準

備状況、自県における分析の提案、今後のスケジュール等について説明された。

中原副会長からは、これからスケジュールに沿って活動を始めていくに当たり、各都道府県毎に名簿活動計画書を作成し進めてほしい旨の説明があった。

その後の質疑応答では、名簿活動に関する内容に加え、その他活動の方針や具体的方法等について活発な意見交換が行われた。

薬剤師や薬局を取り巻く環境が大きく変化しているこの時代、薬剤師・薬局としてしっかりとしたサービスを提供していくと共に、社会保障制度も含む医薬品提供体制の構築のためには、両輪である薬剤師会と薬剤師連盟の連携した活動が必要である。



オレンジ日記

令和6年度予算編成に 向けた夏の概算要求

参議院議員・薬剤師
本田 顕子



例年にも増して猛暑日が続いた今年の8月でしたが、その末日となる31日は来年度の予算編成に向けて、各府省が財務省に提出する概算要求の締め切り日でした。

政府全体の要求総額が過去最高の約114兆円となる中、厚生労働省は総額33.7兆円を要求することになりました。

要求額の規模等は公表資料等で確認いただくとし、薬剤師関連では、引き続き薬剤師確保支援や電子版お薬手帳の活用推進等に取り組むことに加え、来年度からの第8次医療計画の着実な実行や現在検討中の医薬品販売制度の見直し等を念頭に、新たに以下の事業が含まれています。

- 在宅での薬物治療を推進するための体制構築支援
- 災害薬事コーディネーターの養成
- 学校薬剤師・地区薬剤師会によるOTC医薬品の濫用防止対策
- デジタル技術を活用した安全かつ適正なOTC医薬品販売の検討

医薬品の安定供給関連では、医薬局が品質確保に関する企業向け講習会を拡充する等のほか、医政局が原薬確保支援、供給調整等の対応手順等の検討、生産効率化の促進等を通じて、供給問題の解決につなげることであります。

また、文部科学省関係では、地域の医療ニーズを踏まえた薬学教育プログラムの策定等を継続するほか、学校保健等の健康教育の推進、ドーピング防止活動等が拡充されています。

薬価・診療（調剤）報酬等のいわゆる「トリプル改定」や少子化対策、物価高対策等の事項要求への対応など、年末の政府予算案の策定に向けて大事な時期が続きますので引き続き頑張ってまいります。

政 幸 だ よ り

国立国際医療研究センター 病院を訪問

参議院議員・薬剤師
神谷 政幸



今年の通常国会の内閣委員会において「新型インフルエンザ等対策特別措置法及び内閣法の一部を改正する法律案」の審議に対して質問に立ちました。この法律で「内閣感染症危機管理統括庁」設置の具体策の1つとして、国立感染症研究所と国立国際医療研究センターを統合することが盛り込まれたことから、ぜひ現場を訪問したいと考え、令和5年8月2日に国立国際医療研究センター病院を訪問させていただきました。今回は特に、創薬と治験を中心に説明いただきました。

理事長、病院長にお迎えいただき、まず初めに、治験主任から治験薬保管室で治験薬の取扱いや管理方法などについてご説明いただきました。治験薬毎に管理ファイルが設置され、厳重な温度管理が行われていました。万一、設定範囲から保管温度が逸脱した場合は、薬剤部内でアラームが出ると共に、治験薬担当者にもメールで異常が発生したことが連絡されるシステムが採用されていました。

次に、国際感染症センター長から特殊感染症病棟をご案内いただきながら、新型コロナウイルス感染症の初期対応等についてご説明いただきました。特殊感染症病棟を見学することで、今後、未知の感染症等が発生した場合の治療や問題点などについて、実感を持つて考えることができました。

施設見学を終えた後、病院幹部の先生方から、病院の概要と最近の話題、薬剤部の概要、治験の実施状況などについてご説明いただき、意見交換をさせていただきました。治験には多くの人とコストがかかることを改めて実感しました。今後、日本の創薬をより一層進めること、また新たな感染症に立ち向かうための多くの学びがありました。今回の視察にご尽力いただきました関係者の皆様に御礼を申し上げます。